

# 小さいお子さんをお持ちの方の声

小さいお子さんをお持ちの方々は、災害時の避難について不安を感じています。

「みんなで子育てに～よんステーション」でお話をうかがいました。

## ●子どもと二人きりで不安



子どもと二人でいる時が多いので、とっさの時に子どもを助けることができるか不安です。水やおむつなどが欠かせないが、災害時に非常袋を持ち出すのが難しいのではないかと考えています。

## ●水害が一番不安

小学校が避難場所になっていますが、淀川が決壊した場合に避難しても安全なのか不安です。外出している時に水害が来たら、近くのマンションに逃げることができるかいいのですが、入り口がオートロックになっているので入れるかが不安です。



## ●つながりがあると安心



幼稚園や小学校に行くようになって子どもと離れると、災害が起きた時に連絡がとれるかが不安です。ふだんから、子どもを介したつながりがあると、非常時にも安心です。

# 障がいがあるお子さんをお持ちの方の声

障がいがあるお子さんをお持ちの方は、災害時の避難の手助けを必要としています。

「西淀川区おもちゃ図書館おもちゃばこ」でお話をうかがいました。

## ●知的障がいのある子どもの避難



知的障がいのある子は自分の住所も前もいえません。自分と離れている時に災害があるとどうやって連絡をとればよいのかが不安です。知的障がいのある子どもは行きなれていない場所では、不安になります。普段行き慣れた場所が避難所だったらよいのですが……。

## ●避難の手助けがほしい

普段は車いすに子どもを乗せて移動しているが、エレベータが止まると21kgの子どもを抱えて階段でおりないといけない。本人は肩に手をまわすことができないため、おんぶもできません。災害時には手助けがほしい。



## ●避難所での生活は難しい



水分や食事は、チューブから胃瘻に注入しています。避難所で配給される食事は難しいと思います。痰を吸引する機械を使っていますが、電気がないと動きません。停電がきたら子どもの命に関わります。

# 高齢者・障がい者施設の方の声

高齢者・障がい者施設は、施設利用者の災害時の避難の対策に取り組んでいます。

## ●介護が必要な高齢者の避難は難しい



デイサービスセンター あおぞら苑施設長 辰巳さん

・淀中学校が近くにあり、公的な避難所になっているが、介護が必要な高齢者が避難しても対応できないと思います。  
・西淀川が水に浸かったら、あおぞら苑のお年寄りを何回かに分けて、高い建物まで連れていきます。  
・津波がいつ来るのかという正確な情報がわかるかどうか……。防災無線は、今まで聞いたことがありません。  
・在宅の高齢者は、テレビやラジオなどからどれだけ早く情報を得ることができるかが大事です。

## ●在宅の障がい者の状況が分からない

・町会に入っていない人が増えています。地域の中に支援を必要としている人が何人いるのか分かりません。また、個人情報保護法があるため、障がい者の住まいや情報が分かりません。  
・要介護者の避難は、男手で家族のことを気にしなくてもよい独り者で体制をつくらないといけないと思います。  
・精神障がいのある人は、知らない人が助けようとすると、パニックを起こす可能性があります。精神障がい者が利用している介護事業所などで責任を持って対応することが基本となりますが、そうした事情も周囲の方に理解してもらいたいと思います。



訪問介護ステーション げんきな郷代表 村上良一さん

# 佃地域の防災避難ビル

西淀川区区内で防災への対策を自主的に行っている地域の取り組みを紹介します。

## ●津波から避難するための場所が十分にありません

・西淀川区は平坦な地形のため、東南海・南海地震などにより大規模な津波があった場合に、避難する場所がありません。  
・西淀川区役所では、高層マンションなどを「津波災害発生時における緊急一時避難施設」として使わせてもらえるよう、各連合振興町会とマンションの管理組合との間で個別協議をしています。

## ●佃地区の町会では、自主的にマンションと一時避難の受け入れの協定を結んでいます。

・佃連合振興町会では、区の動きよりも早く、マンションの管理組合に申し入れをして、災害時に佃地区にあるマンション14箇所にて一時避難の受け入れをもらう協定を結んでいます。

・避難できるマンションの場所を示した地図を全世帯に配布しています。

・津波災害が発生した際には、マンションの入り口のオートロックを外してもらい、誰でもマンションの上階に避難できるようにしています。



佃地域の防災マップ

# 姫島地区の避難訓練

災害時には、さまざまな人達が協力し合うことが不可欠です。町内会、学校、施設、企業、施設といったさまざまな組織が一緒になって避難訓練を行った、姫島地区の取り組みについて紹介します。

## ●地域と施設と協同の避難訓練

・2011年11月5日の津波・防災の日に、姫島で津波を想定した避難訓練が行われました。  
・全部で460名の方が参加されました。小学校だけでなく今まで参加のなかった中学校も参加し、中学生70名の参加がありました。  
・放送設備がついている青パト（青色防犯パトロールカー）も出動して本格的な避難訓練が行われました。

## ●障がいのある子ども達の避難には地域の協力が必要

姫島の避難訓練に参加した「風の輪」の方にお話をうかがいました。



・帰宅時、通園時、在園時といった災害の発生時間ごとに、避難訓練用のマニュアルを作っています。  
・11月5日行われた避難訓練は、津波を想定して、中学生の手を借りて、近くの企業のビルまで避難しました。  
・施設の職員だけで、子ども達を避難させるのはとても困難です。  
・大規模災害時に、周辺の企業や西淀川中学校などの協力があるととても心強く思います。  
・ふだんから施設と地域を結びつけていくことが大事だと思っています。

# 西淀川 NISHI-YODOGAWA 交通まちづくりプロジェクト

みんなが自分の身の回りの防災について考える手がかりになるように、西淀川の防災についての情報をまとめました。

みんなで守る！  
みんなで助かる！

## にしよどがわ 防災まちづくり 通信

VOL. 1



発行日:2012年3月  
発行元:西淀川交通まちづくりプロジェクト(事務局:あおぞら財団)  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4F  
Tel:06-6475-8885 e-mail:webmaster@aozora.or.jp  
ブログ:http://aozora.or.jp/archives/category/chiiki/kotumachi

※大阪ガスグループ福祉財団の研究・調査助成を受け、あおぞら財団が事務局となって実施しています。

# 西淀川ではどんな災害が起こるの？

## 越山健治さんのお話

関西大学社会安全学部 准教授

西淀川区ではどのような災害が起こるのでしょうか？  
また、その災害に対して市民みんなはどのようなことができるのでしょうか？



災害について取り組むヒントをえるために、2月11日(土)に、あおぞら財団にて、関西大学准教授の越山先生をお招きして、防災まちづくり講演会「災害に強いまちづくりに対して市民ができることは何か」を行いました。

## ◆西淀川ではさまざまな災害が想定されます

- ・東南海・南海地震が起こった場合には、津波、大規模な停電、地盤の液状化、橋の通行止めによる物資の不足などが考えられます。
- ・西淀川は橋が通行止めされてしまうと、陸の孤島になってしまいます。
- ・西淀川には工場地域があります。工場には、化学薬品などを扱っているため、災害時の工場の火災は木造密集住宅地以上に危険です。
- ・大阪ではプレート型よりも直下型の地震の方が大きな被害が出るのが予想されます。もっとも危ないのと言われているのは、上町断層です。

マグニチュード9クラスの地震がおきた場合、西淀川では、震度6弱、津波高はOP\*+5.1m(\*OP:大阪湾最低潮位面)、津波が海岸に到着する時間は地震発生から90から120分と想定されています。(参考資料:内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」の検討結果(2012年3月31日公表))

## ◆災害に強いまちとは

1. 災害が起きないようにしているまち
2. 災害に対する備えがあるまち
3. 災害で被害が拡大しないまち
4. 災害からの復興が実行できるまち

・今までは、「災害が起きないようにしているまち」に重点を置いて整備してきましたが、すべての災害を防ぐことはできません。  
・今後は、災害が起きないようにしながらも、「災害に対する備え」、「被害が拡大しない」、「復興が実行できる」まちを作っていく必要があります。

## ◆人を救う力は自分を救う力になる

・災害発生時には、自助、共助、公助が大事です。  
・避難訓練は、自分で避難できる人と助けてもらう人を明らかにする意味があります。  
・人を救う力は、相手のためだけでなく、自分を救う力になります。みんなで要介護者の支援について考えていくことが大切です。また、他の地域を助けることができる地域は、自分達の地域を助けることができます。  
・防災の力は、日常の余裕の力です。日常から余裕をもって暮らすことが自助を高め、人を助ける力に繋がります。